

FT-891 簡単操作ガイド

[RF/SQL] ツマミ

- 反時計方向にまわす ➡ ノイズが下がって強い信号だけが浮き上がって聞こえます。
- まわしすぎると弱い信号が受信できなくなりますので、通常はメーターが振れない位置でご使用ください。
 - メニューモードの“05-05[RF/SQL VR]”で“SQL”を選択するとスケルチツマミとして動作します。

[AF] ツマミ

- 受信音量を調節するツマミです。
- 時計（右）方向にまわすと音量が大きくなり、反時計（左）方向にまわすと音量が小さくなります。

[MULTI] ツマミ

- VFO-A の周波数を 500kHz でアップダウン(AM、FM モード時を除く)
[MULTI] ツマミを押してディスプレイの表示を “**A**” にする ➡ [MULTI] ツマミをまわす。
- VFO-B の周波数を変える
[MULTI] ツマミを押してディスプレイの表示を “**B**” にする ➡ [MULTI] ツマミをまわす。
- [A]/[B]/[C] / [CLAR] キー機能の操作
(例) [A] キーに IF SHIFT 機能を割り当てている場合：
[A] キーを押す ➡ IF SHIFT のポップアップ画面が表示 ➡ [MULTI] ツマミをまわして通過帯域を調整することができます。
- [MULTI] ツマミを長押しするとリセットすることができます。
- 希望のメモリーチャンネルを選ぶ
メモリーチャンネルのリスト画面が出ている時に [MULTI] ツマミをまわして押すと、希望するメモリーチャンネルにすることができます。
- ファンクション画面の機能を ON/OFF する
[F] キーを押して表示されるファンクション画面の機能操作を [MULTI] ツマミをまわして行うことができます。
 - ・項目の選択 ([MULTI] ツマミをまわす)
 - ・機能の ON/OFF ([MULTI] ツマミを押す)
 - ・機能の設定値変更 ([MULTI] ツマミを押してから [MULTI] ツマミをまわして設定値を変える)
- メニューモードの項目を選択して設定値を変更できます。

[PWR/LOCK] キー

- 長押し ➡ 電源の ON/OFF
電源がオンの状態で押す ➡ メインダイアルの動作がロックされます。
- もう一度押すとロックが解除されます。

メインダイアル

- 時計（右）方向にまわすと運用周波数が高くなり、反時計（左）方向にまわすと運用周波数が低くなります。
- [FAST] キーの操作で早送りをすることができます。
 - [PWR/LOCK] キーの操作でメインダイアルをロックすることができます。

[CLAR] キー

- 押す ➡ [MULTI] ツマミをまわす ➡ 送信周波数は変えずに受信周波数だけを ± 9.998kHz の範囲で変えることができます。
SSB 運用時に自分の送信周波数をそのままにして受信周波数だけを動かし相手の送信周波数に合わせて聴きやすくすることができます。
- クラリファイアのオフセット量（周波数）は、記憶していますが、[MULTI] ツマミを長押ししてリセットすることができます。

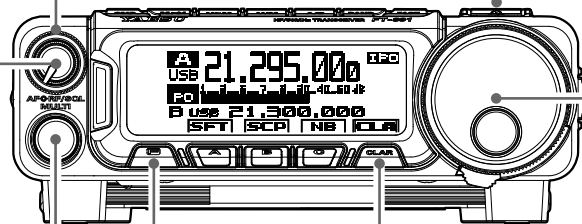
[F] キー

押す ➡ ファンクション / 設定画面が以下のように切り変わります

➡ FUNCTION-1 ➡ FUNCTION-2 ➡ CW SETTING ➡

- それぞれの画面で [MULTI] ツマミをまわして希望する機能を選び、[MULTI] ツマミを押すと機能を ON/OFF することができます。
- [A]/[B]/[C] キーにファンクション画面中の機能を割り当てるには、[MULTI] ツマミをまわして希望する機能を選び、[A]/[B]/[C] キーのいずれかのキーを長押しします。
- FM SETTING、REC SETTING、ATAS SETTING をファンクション画面に表示させるには、メニューモードの“05-10”、“05-11”、“05-12”を“ENABLE”に設定すると表示させることができます。

長押し ➡ メニューモードの画面が表示され本機の詳細な設定をすることができます。



[QMB] キー

Quick Memory Bank はワンタッチで周波数、モードなどを書き込んで呼び出すことができる便利な機能です。

長押し ➡ 現在 VFO-A に設定されている周波数などのデータを、クイックメモリーバンク (QMB) に書き込みます。

- QMB のメモリー数は 5 チャンネルです。それ以上書き込みを行うと、古いデータから消去されます。
- 書き込まれたデータは、[QMB] キーを押すたびに新しいデータから順番に呼び出すことができます。
- 呼び出した QMB の周波数を変えたいときは、メインダイヤルをまわします。

[M▶V] キー

メモリーチャンネルの情報を VFO-A へ書き込むキーです。

押す ➡ “MEMORY CHANNEL” リスト画面が表示 ➡ [MULTI] ツマミをまわしてメモリーチャンネルを選択 ➡ [M▶V] キーを押す ➡ そのメモリーチャンネルの情報が VFO-A に書き込まれます。

[V▶M] キー

VFO-A の情報をメモリーチャンネルへ書き込むキーです。

押す ➡ “MEMORY CHANNEL” リスト画面が表示 ➡ [MULTI] ツマミをまわして保存したいメモリーチャンネルを選択 ➡ [V▶M] キーを押す ➡ 希望のメモリーチャンネルに書き込まれます。

- “MEMORY CHANNEL” リスト画面が表示されている状態では、[A]/[B]/[C] キーはメモリーリストの修正に使用することができます。

[V/M] キー

VFO-A のデータとメモリーチャンネルのデータが交互に呼び出されます。

- メモリーチャンネルに保存されたデータが呼び出されたときは、表示が “[M01]” のようにメモリーチャンネルの番号が表示されます。メモリーチャンネルは最後に呼び出したメモリーチャンネルが呼び出されます。
- メモリーチャンネル番号を変える時は [MULTI] ツマミをまわしてメモリーチャンネル番号を変えます。
- メモリーチャンネル呼び出し時にメインダイヤルをまわす ➡ 表示が “[MT]” に変わりメモリーチャンネルから周波数を変更していることを表示します。
この状態で [V/M] キーを押す ➡ もとのメモリーチャンネルの周波数に戻ります

[A/B] キー

押す ➡ VFO-A と VFO-B のデータが入れ変わります。

長押し ➡ VFO-A のデータが VFO-B に書きこまれます。

[BAND(MODE)] キー

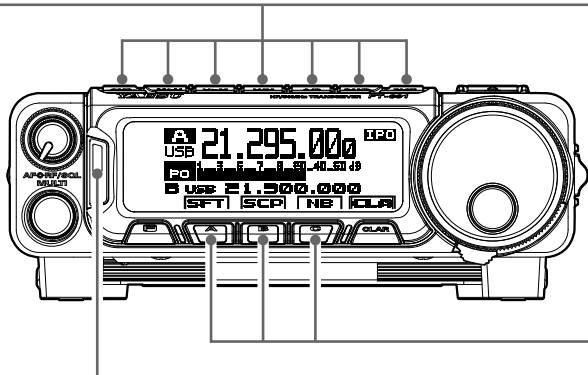
押す ➡ “BAND SELECT” のポップアップ画面が表示 ➡ メインダイヤルをまわして希望の運用バンドを選択 ➡ 約 1 秒で自動的に希望の運用バンドへ移動します。

長押し ➡ “MODE SELECT” のポップアップ画面が表示 ➡ メインダイヤルをまわして希望の運用モードを選択 ➡ 約 1 秒で自動的に希望の運用モードが選択されます。

[FAST] キー

メインダイヤルの周波数変化量を大きくするキーです。

押す ➡ “[FS]” が表示 ➡ メインダイヤルの周波数変化量が大きくなります。



送受信インジケーター

緑色：スケルチ動作時に信号を受信したとき。

青色：CW モード時に相手の信号に同調（ゼロイン）したとき。

FM モードの時にトーン周波数や DCS コードが一致したとき。

赤色：送信したとき。

[A]/[B]/[C] キー

各キーによく使う機能を割り当てることができ、ワンタッチで呼び出すことができます。

- 工場出荷時は、以下の機能が割り当てられています。

● [A] (SFT) : IF SHIFT 機能

IF DSP によるデジタルフィルターの通過帯域の位置を移動 (シフト) して、帯域内にある混信を除去することができます。

[A] (SFT) キーを押す ➡ IF SHIFT の画面がポップアップ表示 ➡ [MULTI] ツマミをまわして希望する位置に通過帯域を移動します。

- [MULTI] ツマミを長押しすると、もとの位置にリセットされます。

● [B] (SCP) : スコープ機能

バンド内の状態をディスプレイに表示することができます。

[B] (SCP) キーを押す ➡ 一度その周波数帯でスイープをしてスコープ画面になります。

スコープ画面での [A]/[B]/[C] キーの機能が自動的に以下ようになります。

[A] (SPN) : 画面の幅を 37.5kHz、75kHz、150kHz、375kHz、750kHz、に切り替えます。

[B] (SWP) : 押すたびにバンド内を一度スイープして受信状態に戻ります。

長押しをすることで連続スイープになります。

[C] (LV1 ~ 3) : 画面のリファレンスレベルを 3 段階に調整できます。

- スコープ画面で [MULTI] ツマミを押してからまわすと 500kHz ステップで周波数を変更することができます。

● [C] (NB) : ノイズブランカー機能

自動車のイグニッションノイズやパルス性の雑音を軽減させることができます。

